

6-2 大宇陀地域

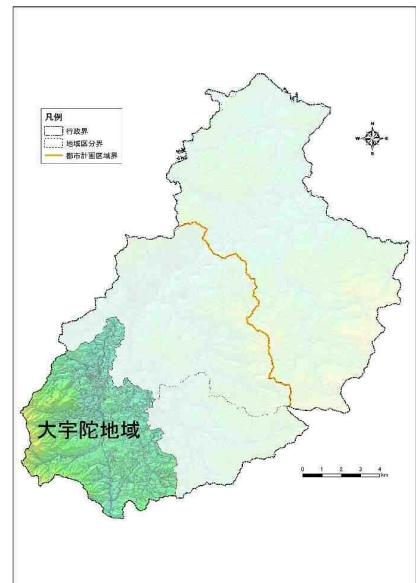
(1) 地域の概況

① 地域の概要

大宇陀地域は、本市の南西部に位置し、地域には国道 166 号及び国道 370 号が地域の内外を結んでいます。最寄りの鉄道駅は榛原駅で、路線バスが運行されており、所要時間は約 20 分となっています。

大宇陀地域は、城下町から商家町として発展し、当時の町並み景観が残っている宇陀松山地区が、重要伝統的建造物群保存地区として選定されています。また、宇陀松山地区の他にも、宇陀松山城跡、森野旧薬園、県営うだ・アニマルパーク等の多くの観光資源が存在しています。

道の駅「宇陀路大宇陀」は、地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、地域での意欲的な取り組みが期待できるものとして、『重点道の駅候補』に選定されています。ここでは、地域の観光資源の情報発信、薬猟発祥の地とする宇陀の薬草を活用した新たな特産品の加工・販売に対して、関係機関が連携した取り組みを進めています。

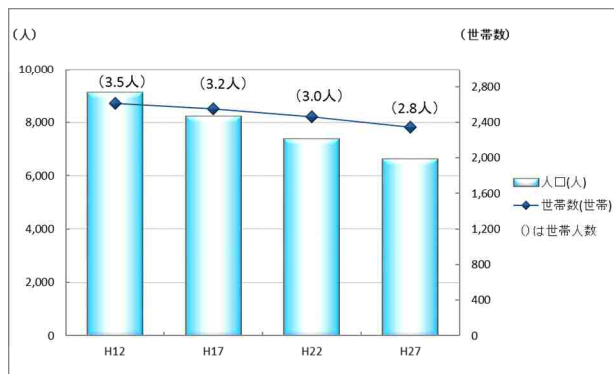


又兵衛桜



宇陀松山重要伝統的建造物群保存地区

② 人口及び世帯数



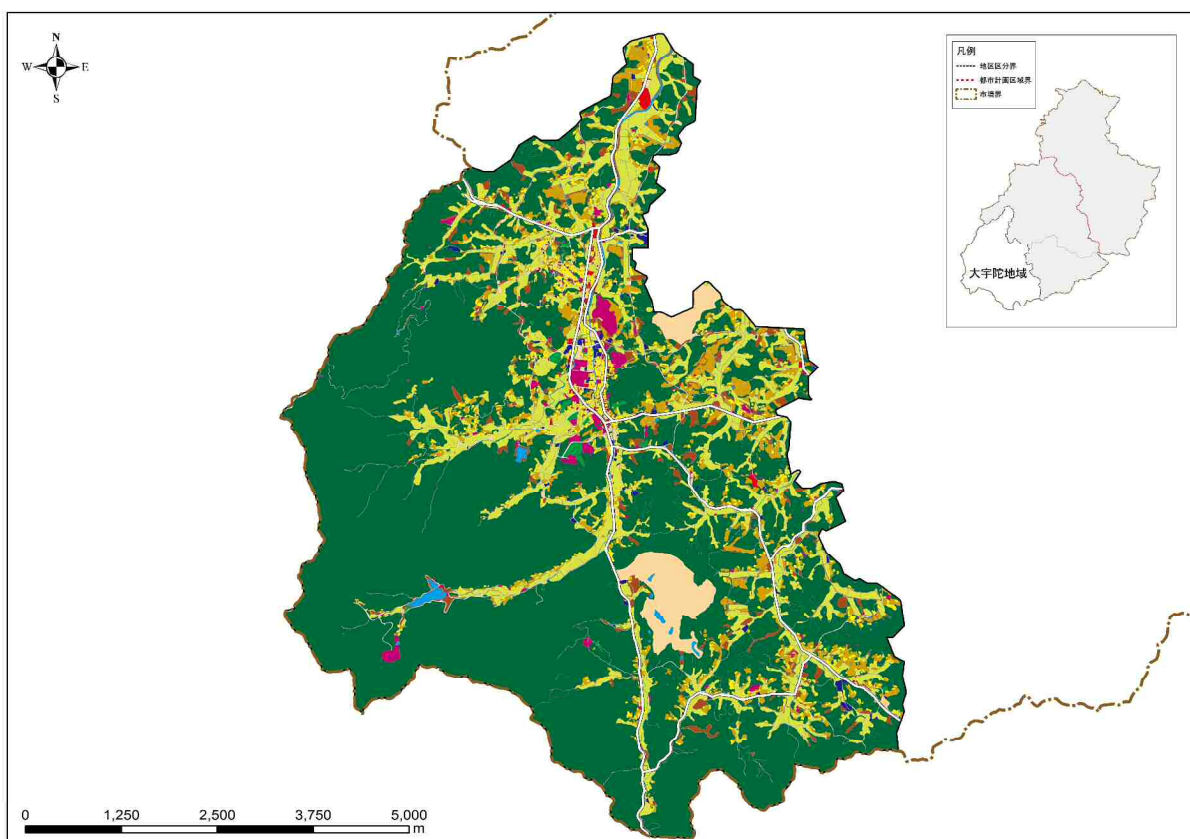
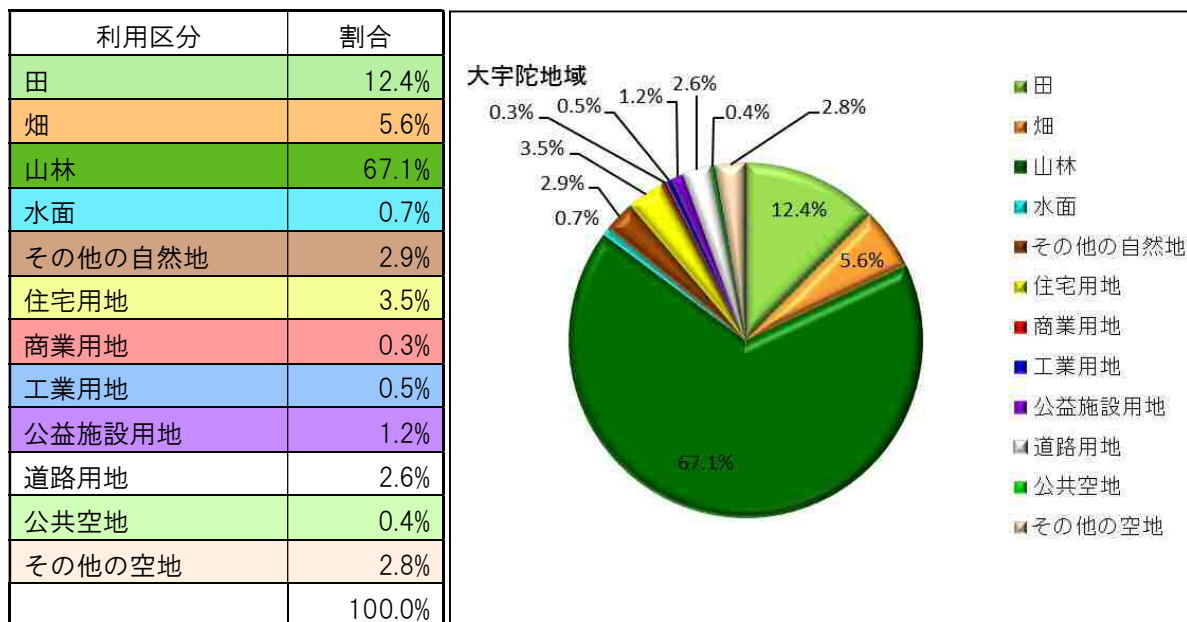
※ 小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%とはならない。

資料：国勢調査

大宇陀地域の人口、世帯数、世帯人員はともに減少傾向にあります。特に人口は、H12 の 9,104 人から H27 では 6,616 人と約 27%の大幅な減少となっています。年齢階層別の人口では、H27 の高齢者の割合は約 37%と増加しており、今後さらなる少子高齢化の進展が見込まれています。

③ 土地利用状況

大宇陀地域の土地利用は、山林が7割程度を占めており、住宅用地は4%未満となっています。

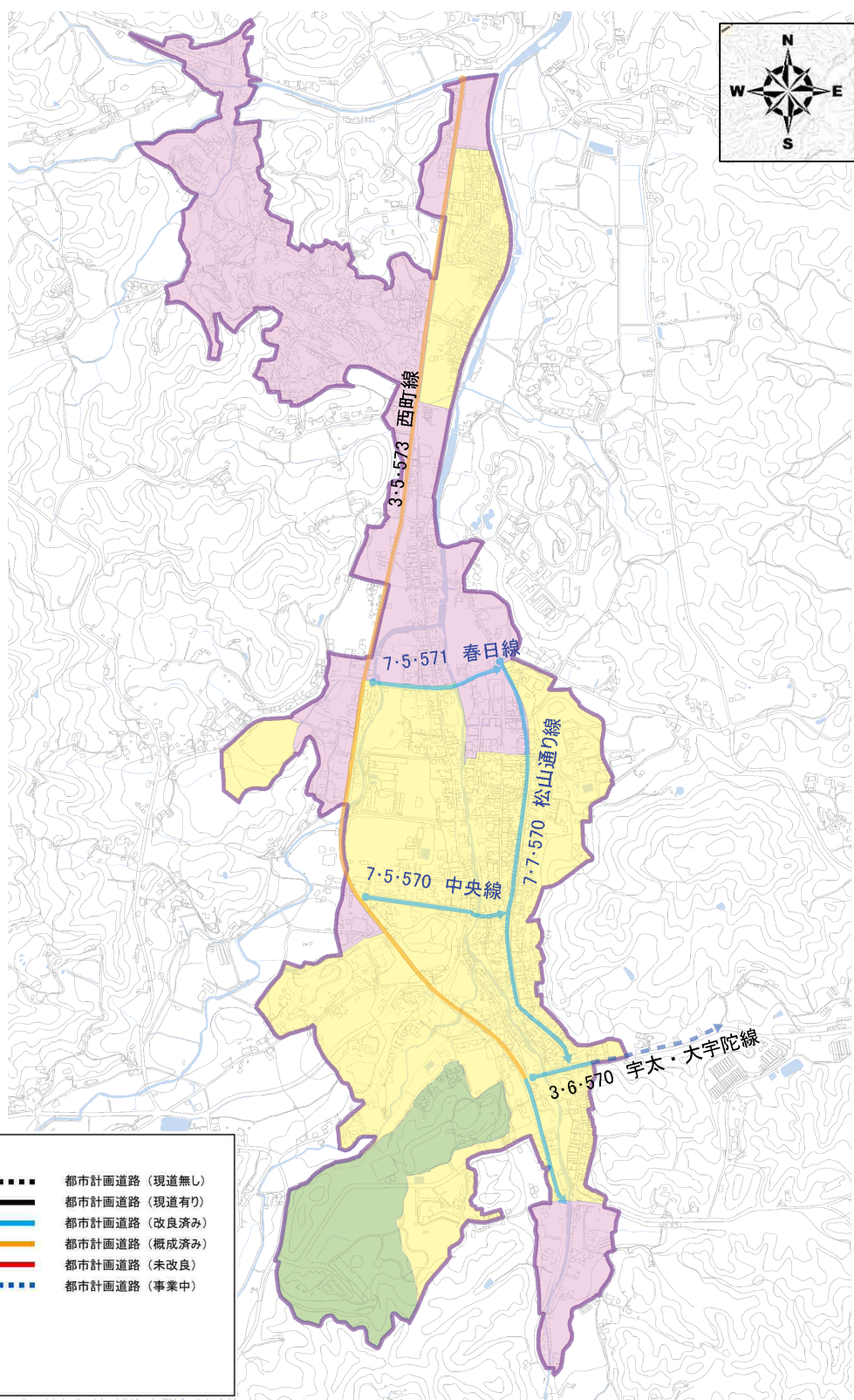


資料：H26 都市計画基礎調査

(2) 都市計画の状況

大宇陀地域の市街化区域には、第一種中高層住居専用地域、第一種住居地域、準工業地域が指定されています。

都市計画道路は5路線指定されていますが、この内7・5・570 中央線、7・5・571 春日線、7・7・570 松山通り線は全線整備済みとなっています。また、3・6・570 宇太・大宇陀線は全線整備に向けて事業が進められています。3・5・573 西町線についても、今後必要性や代替性を踏まえ見直しを行っていきます。



(3) 大宇陀地域におけるまちづくりの課題

① 市民意向

1. アンケート結果

【都市計画マスタープラン策定のためのアンケート調査】

(平成 25 年 1 月実施、市民 2,000 票配布・回収率 50%、高校生 268 票配布・回収率 95%)

大宇陀地域の強み	大宇陀地域に対する要望
・ 歴史 ・ 道路管理、維持に積極的 ・ 宇陀市内での就業が最も多い	・ 市街化の区分での経済の活性化を阻害しないよう緩和の措置 ・ 広域を結ぶ幹線道路（国道・県道）の整備 ・ 歩道の整備、バリアフリー化 ・ 行政への道路の維持管理 ・ 土砂災害への対策 ・ 防犯灯（街路灯）の増設

【中学生アンケート】

(平成 28 年 7 月実施、大宇陀中学校の 2 年生全員に配布・全員直接回収)

将来に残したいもの	改善したいもの	創りたいもの
1. 歴史・伝統 2. 自然環境 3. 景観 4. 観光施設 5. 寺社・仏閣	1. 公共交通 2. 都市環境 3. 自然環境 4. 道路・トンネル 5. 教育施設	1. 商業施設 2. 小売店 3. 娯楽施設 4. 温泉・宿泊施設 5. 公共交通

※回答結果を類型化したもの、意見が多い順。

アンケート結果からみるまちづくりの方向性

- ・ 固有の歴史や伝統の継承
- ・ 国道 166 号、370 号等、広域幹線道路の整備・改善
- ・ 誰もが歩きやすい歩道の整備やバリアフリー化
- ・ 観光資源を活かした観光誘客施策
- ・ 災害対策や防犯対策による安全、安心のまちづくり
- ・ 各種販売店等の商業機能の充実

② 大宇陀地域の課題

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

全体構想における位置づけ

- ・大宇陀地域事務所周辺は、本地域の地域拠点として、生活に必要な都市機能の集積や、活力を発信していく拠点形成を図る。【将来都市構造/地域拠点】
- ・様々な連携や交流を生み出す広域連携軸が、地域の南北方向、東方向に通じており、広域的な交通ネットワークの確保を図る。【将来都市構造/広域連携軸】
- ・古くから薬猟の地とされていることを活かした薬草産業の定着を図る。【分野別の方針/市街地・産業環境の方針】
- ・重要伝統的建造物群保存地区である宇陀松山地区は、観光レクリエーション拠点として、観光客の誘客に向けたさらなる整備・保全を図る。【分野別の方針/歴史・自然・観光の方針】
- ・本市の主要駅である榛原駅との公共交通ネットワークの拡充を図る。

アンケート調査結果

- ・固有の歴史や伝統の継承
- ・災害対策や防犯対策による安全、安心のまちづくり
- ・国道166号、370号等、広域幹線道路の整備・改善
- ・誰もが歩きやすい歩道の整備やバリアフリー化
- ・観光資源を活かした観光誘客施策
- ・各種販売店等の商業機能の充実

ワークショップ結果（平成28年6月22日（水）実施 参加人数：21名）

【歴史・文化・観光】	【自然・農業】	【生活、地域交流、子育て、教育】
・観光産業の強化	・農村風景の保全	・移住者体験施設整備
・観光施設周辺整備（駐車場等）	・ホタルの育成、河川の水質保全	・地域コミュニティの形成・維持
・文化、歴史の継承	・鳥獣被害対策	【その他】
・アニマルパークの活用	【道路・交通】	・全地域への上水道整備
⇒重伝建宇陀松山地区、宇陀松山城跡のみ	・高齢者に優しい道路整備	・人権交流センターの存続
・空き家の有効利活用	・公共交通サービスの維持	
・電柱の地中化	・道路危険箇所の改善	
・城山の展望改善、周辺整備		
・宇陀松山地区内の駐車場整備		

大宇陀地域のまちづくりの課題

- ・観光資源を有効利活用するためのインフラ整備
- ・薬草産業によるまちづくり活性化方策
- ・豊かな自然環境や農村風景の保全
- ・榛原地域との公共交通サービスによるネットワークの維持・拡充
- ・誰もが安心、安全に移動できる歩行空間の形成
- ・災害対策や防犯対策による安全、安心のまちづくり

(4) 大宇陀地域の将来像

① まちづくりの方向性

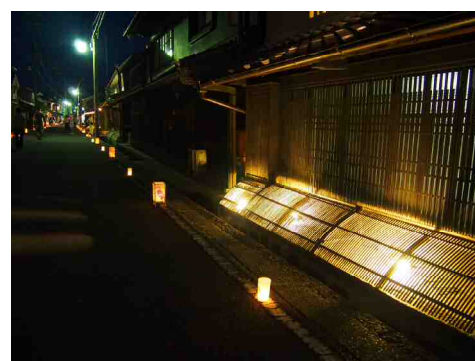
大宇陀地域は、道の駅「宇陀路大宇陀」や重要伝統的建造物群保存地区である宇陀松山地区、宇陀松山城跡、森野旧薬園、県営うだ・アニマルパーク、大宇陀温泉あきののゆ等、豊富な観光資源を有していますが、アクセス環境等を整備することで、周辺地域への周遊も視野に入れた、活力あるまちづくりを行っていきます。

また、榛原地域及び菟田野地域と連携する公共交通ネットワークの維持・拡充を図りながら、身近な場所で生活サービスを受けることができるまちづくりを進めます。

② まちづくりのテーマ

豊富な観光資源を活かした、 活力あふれるまちづくり

大宇陀地域が有する豊富な観光資源を有効活用することで、人を呼び込み、活力あるまちづくりを行っていきます。



宇陀松山夢街道～町並みライトアップ～

③ まちづくりの方針

土地利用

○住宅地

- ・市街化区域内の住居系用途地域では、周辺の豊かな自然環境と調和した住宅地の形成を図ります。
- ・市街化調整区域内の住宅地では、無秩序な開発を抑制し、地域コミュニティの維持を図るなど、生活の質の向上を目指します。
- ・空き家の有効利活用の検討を進めるとともに、U/I ターン受け入れの土台づくりを検討し、定住促進を図ります。

○商業地

- ・道の駅「宇陀路大宇陀」及び大宇陀地域事務所周辺は、地域の拠点として、公共施設を中心とした生活に必要な都市機能を集積し、日常生活の利便性を高め、活力を発信していく拠点形成を図ります。
- ・古くから薬草が多く収穫される本地域の特性を活かし、薬草を使用した6次産業の展開を支援します。

○工業地

- ・市街化区域内の工業地では、既存産業の維持・拡充を目指し、機能強化を図ります。

○観光創出地

- ・重要伝統的建造物群保存地区に選定されている宇陀松山地区周辺では、歴史的建造物の保全を進めるとともに、観光客の増加に向けた町並みの向上やアクセスルートの整備を進めます。

道路・交通

○道路

- ・未整備となっている都市計画道路については、その必要性や代替性を検討した上で、存続すべき道路の整備を推進します。
- ・宇陀松山地区や宇陀松山城跡等の観光地に対し、歩きたくなる観光ルートの形成を目指した歩道の整備等を進めます。
- ・県営うだ・アニマルパークは、多くの来訪者を集める公園であることから、周辺の駐車場の整備やアクセスルートの改善を促進します。

○公共交通

- ・既存の公共交通を有効に活用し、道の駅「宇陀路大宇陀」再整備を契機に乗り継ぎ利便性の向上など交通機関相互の連携を図り、持続可能な地域公共交通ネットワークを形成します。
- ・地域の特性に対応した公共交通サービスの運行形態・仕組みの見直し・改善を推進します。

公園・緑地

○公園

- ・心の森総合福祉公園は、ふれあい交流ドームや大宇陀温泉あきののゆ等とともに地域の憩いの場となっていることから、今後とも保全・活用を図ります。
- ・既存の公園は、健幸都市ウェルネスシティ構想の実現に向けた取り組みを推進します。

○都市緑化

- ・四季彩のネットワークに位置づけられる宇陀川は、都市間の自然環境を繋ぐものであることから、今後も整備・保全を図ります。

その他都市施設

- ・県宇陀土木事務所跡地等について、公有地の積極的な有効利活用の検討を行います。

市街地・産業環境等

- ・旧野依小学校周辺では、地域の活力向上に寄与する取り組みの検討を進めます。
- ・道の駅「宇陀路大宇陀」及び大宇陀地域事務所周辺等への生活サービス施設の集約を図ります。

歴史・自然・観光

- ・道の駅「宇陀路大宇陀」や重要伝統的建造物群保存地区である宇陀松山地区、宇陀松山城跡、森野旧薬園、県営うだ・アニマルパーク、大宇陀温泉あきののゆ等の観光資源について、さらなる観光振興を図るため、アクセス道路や駐車場等の環境整備を進めるとともに、それらを周遊できる外周ルート整備について検討します。

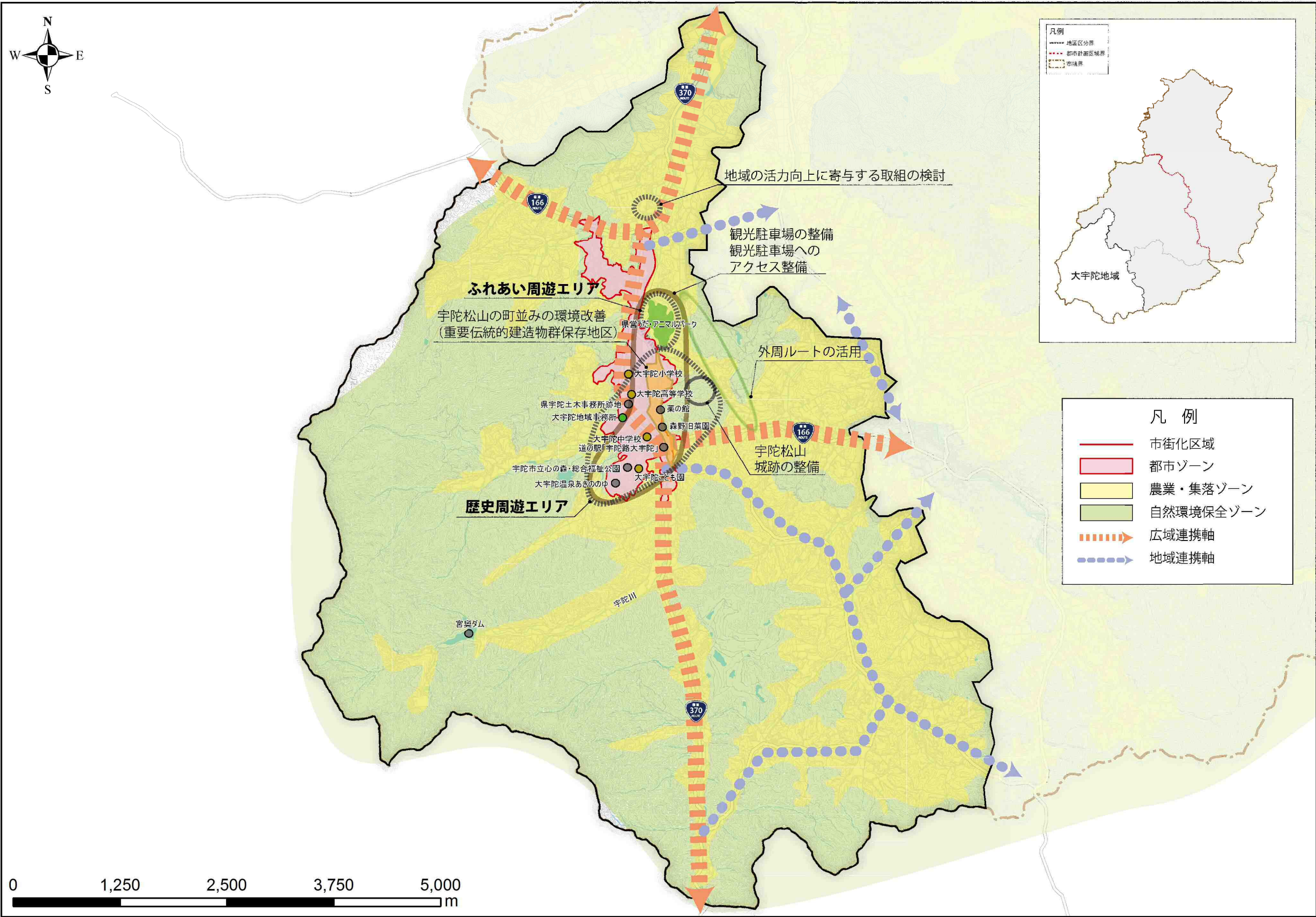


道の駅「宇陀路大宇陀」

防災

- ・発災時、地域防災拠点（情報通信副拠点）に位置づけられる大宇陀地域事務所は、施設の耐震化や情報通信機器の整備を推進します。

(5) 大宇陀地域方針図



6-3 菟田野地域

(1) 地域の概況

① 地域の概要

菟田野地域は、本市の南東部に位置し、国道 166 号が地域の内外を結んでいます。最寄りの鉄道駅は榛原駅で、路線バスが運行されており、所要時間は約 20 分となっています。

菟田野地域には、カエデの郷ひららや芳野川沿いの桜街道、国宝宇太水分神社等、豊かな自然や観光資源が存在しており、市の観光周遊拠点としての利活用が求められています。

古くから地場産業として銘木や毛皮革産業が発展しており、菟田野を代表する観光資源であるカエデと共に、新製品の開発やブランド化を意識した産業従事者の募集と育成を進めています。

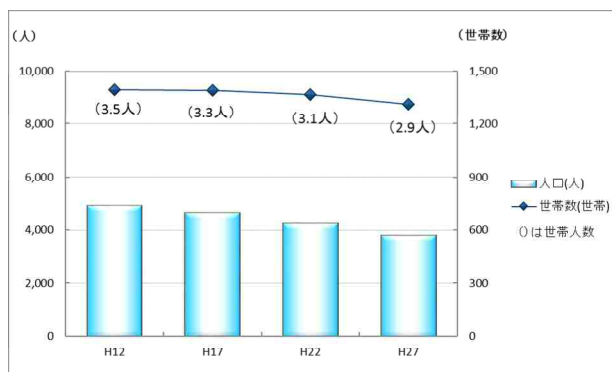


カエデの郷ひらら



秋祭り

② 人口及び世帯数



※ 小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%とはならない。

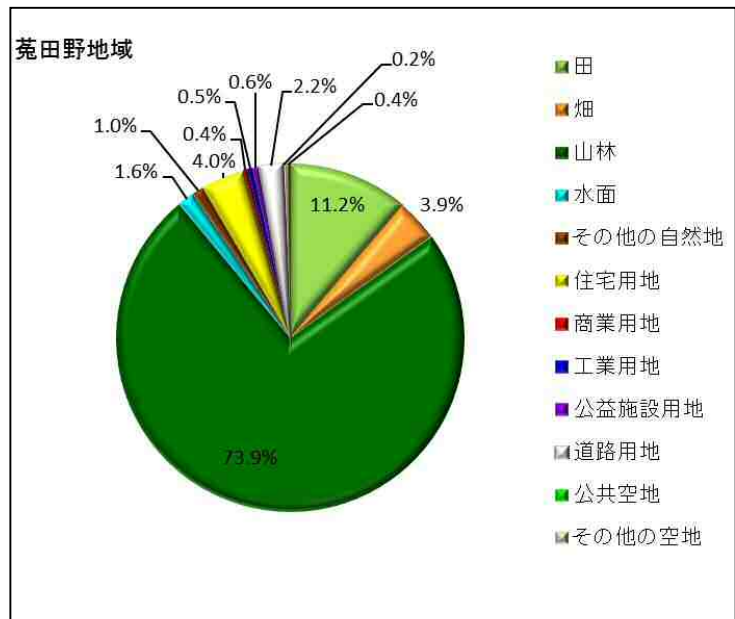
資料：国勢調査

菟田野地域の人口、世帯数、世帯人員はともに減少傾向にあり、人口は H12 の 4,914 人から H27 では 3,773 人と約 23%の減少となっています。年齢階層別の人口では、H27 の高齢者の割合は約 37%と増加しており、今後さらなる少子高齢化の進展が見込まれています。

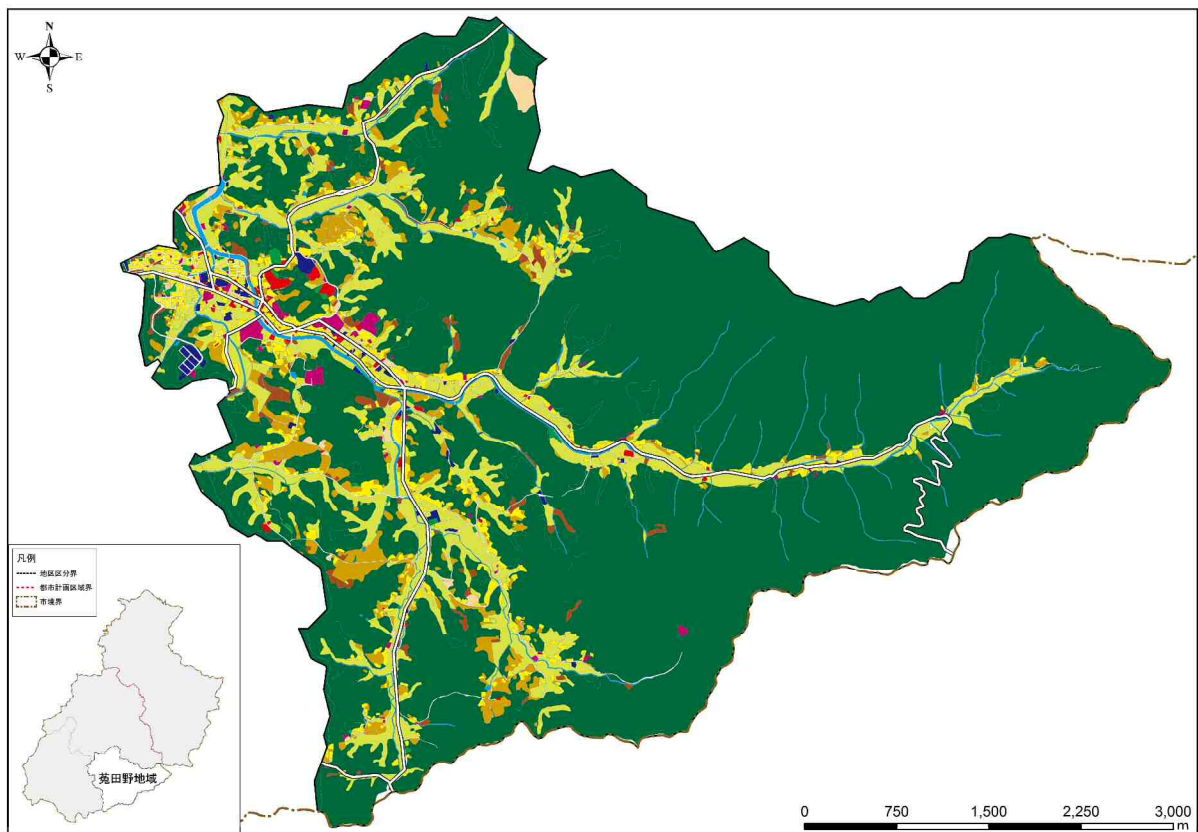
③ 土地利用状況

菟田野地域の土地利用は、山林が約74%を占めており、住宅用地は約4%となっています。

利用区分	割合
田	11.2%
畑	3.9%
山林	73.9%
水面	1.6%
その他の自然地	1.0%
住宅用地	4.0%
商業用地	0.4%
工業用地	0.5%
公益施設用地	0.6%
道路用地	2.2%
公共空地	0.2%
その他の空地	0.4%
計	100.0%



※ 小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

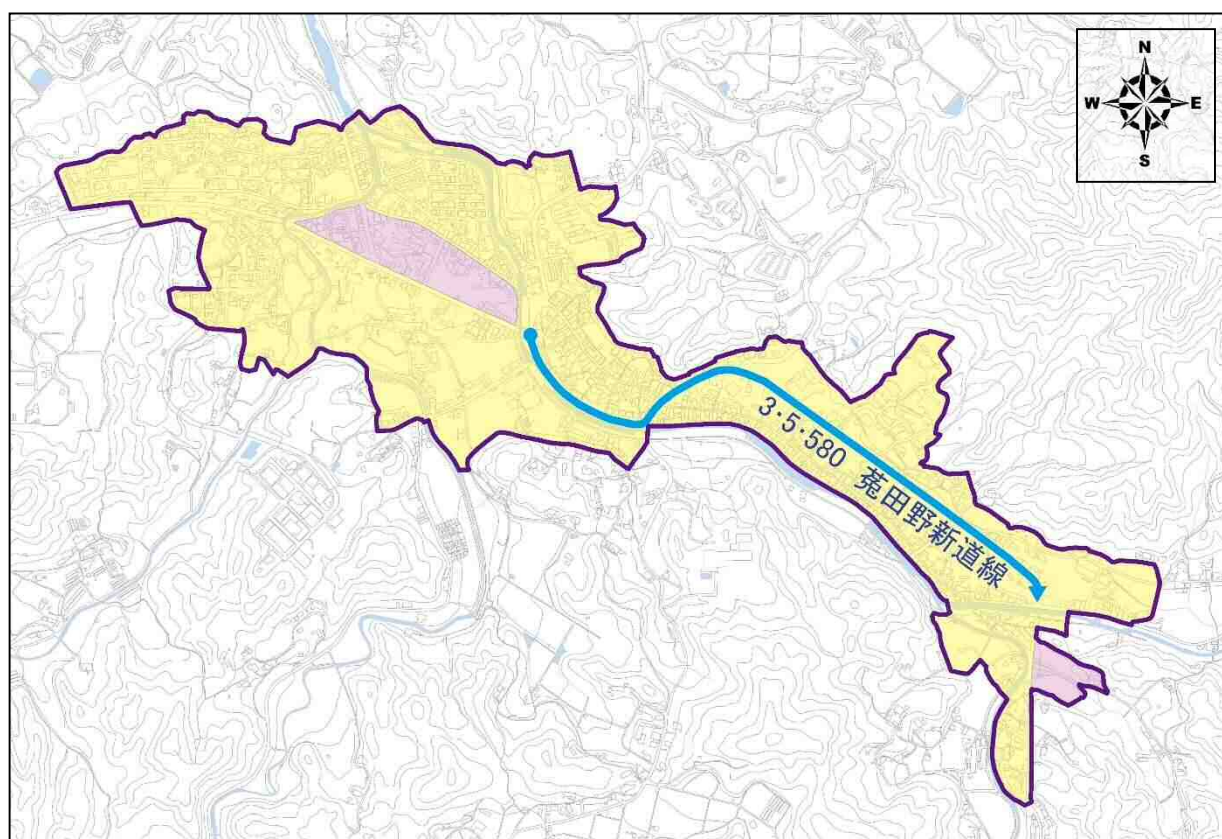


資料：H26 都市計画基礎調査

(2) 都市計画の状況

菟田野地域は大部分が市街化調整区域となっていますが、市街化区域には、第一種住居地域と準工業地域が指定されています。

都市計画道路は、3・5・580 菟田野新道線が1路線のみ指定されていますが、全線改良済みとなっています。



凡例	
	行政界
	市街化区域
用途地域	
	第一種低層住居専用地域
	第一種中高層住居専用地域
	第一種住居地域
	第二種住居地域
	近隣商業地域
	商業地域
	準工業地域
	都市計画道路（現道無し）
	都市計画道路（現道有り）
	都市計画道路（改良済み）
	都市計画道路（概成済み）
	都市計画道路（未改良）
	都市計画道路（事業中）

(3) 菟田野地域におけるまちづくりの課題

① 市民意向

1. アンケート結果

【都市計画マスタープラン策定のためのアンケート調査】

(平成 25 年 1 月実施、市民 2,000 票配布・回収率 50%、高校生 268 票配布・回収率 95%)

菟田野地域の強み	菟田野地域に対する要望
・豊かな自然 ・地域力（アンケート対象者のうち半数以上の市民が通算 30 年以上菟田野に住み続けている）	・市街化の区分の反対 ・商業施設や企業誘致の増加 ・広域を結ぶ幹線道路（国道・県道）の整備 ・行政への道路の維持管理 ・土砂災害への対策 ・防犯灯（街路灯）の増設

【中学生アンケート】

(平成 28 年 7 月実施、菟田野中学校の 2 年生全員に配布・全員直接回収)

将来に残したいもの	改善したいもの	創りたいもの
1. 行事・イベント 2. 自然環境 3. 寺社・仏閣 4. 教育施設 5. 農業・特産	1. 公共交通 2. 道路・トンネル 3. 防災・安全 4. 小売店 5. 都市環境	1. 専門店 2. 娯楽施設 3. 小売店 4. 飲食店 5. スポーツ施設

※回答結果を類型化したもの、意見が多い順。

アンケート結果からみるまちづくりの方向性

- ・豊かな自然の保全
- ・地域コミュニティの維持、形成
- ・道路の維持管理等、社会基盤整備の推進
- ・観光資源を活かした観光誘客施策
- ・災害対策や防犯対策による安全、安心のまちづくり
- ・各種販売店等の商業機能の充実

② まちづくりの課題

全体構想における位置づけ

- ・菟田野地域事務所周辺は、本地域の地域拠点として、生活に必要な都市機能の集積や、活力を発信していく拠点形成を図る。【将来都市構造/地域拠点】
- ・東吉野村方面と本市とを結ぶ広域連携軸（国道166号）が地域に通じており、地域連携軸とともに効率的な都市機能の強化に向けた交通ネットワークの確保を図る。【将来都市構造/広域連携軸・地域連携軸】
- ・毛皮革工場団地の産業基盤強化を引き続き進めていくとともに、さらなる企業誘致に向けた環境づくりを進める。【分野別の方針/市街地・産業環境の方針】
- ・国宝宇太水分神社は、観光レクリエーション拠点として、観光客の誘客に向けたさらなる整備・保全を図る。【分野別の方針/歴史・自然・観光の方針】

アンケート調査結果

- ・豊かな自然の保全
- ・災害対策や防犯対策による安全、安心のまちづくり
- ・地域コミュニティの維持、形成
- ・道路の維持管理等、社会基盤整備の推進
- ・観光資源を活かした観光誘客施策
- ・各種販売店等の商業機能の充実

ワークショップ結果（平成28年6月28日（火）実施 参加人数：24名）

【農業・自然・景観】

- ・特産物等の加工、販売施設の創出
- ・鳥獣害対策
- ・桜並木や河川、田園風景の継承
- ・休耕田の利活用

【文化・観光・集客】

- ・固有の祭や芸能文化の復活
- ・地域に多く存在する史跡の整備、維持管理
- ・観光名所のルート作りなど、市外への観光アピール

【道路・交通】

- ・公共バスやコミュニティバスの増便
- ・中和幹線の延伸
- ・サイクリングロード、レンタサイクルの整備

【生活・交流・子育て】

- ・地域の交流の場
- ・古民家や空き家の利活用
- ・移動コンビニ
- ・身近な仕事場や食事をすることができる場所

【防災・安全】

- ・防災屋外拡声器の改善
- ・避難場所の整備

菟田野地域のまちづくりの課題

- ・地場産業の強化による地域活力の向上
- ・観光資源や固有の祭、芸能文化を活かした交流人口の増加
- ・古民家や空き家の利活用による定住促進に向けた取り組み
- ・公共交通の利便性向上、道路ネットワークの拡充
- ・豊かな自然景観の保全、継承
- ・災害対策や防犯対策による安全、安心のまちづくり

(4) 菟田野地域の将来像

① まちづくりの方向性

菟田野地域は、古くから地場産業として銘木や毛皮革産業が発展してきましたが、近年生産量や従事者が減少しているため、地場産業の振興を目指した新製品の開発によるブランド化や、従事者の募集・育成により、地域活力の向上・地域の活性化を図ります。

また、榛原地域及び大宇陀地域と連携する公共交通ネットワークの維持・拡充を図りながら、身近な場所で生活サービスを受けることができるまちづくりを進めます。

本地域が有する観光資源である国宝宇太水分神社やカエデの郷ひららを拠点として、観光誘客の増加と空き家対策等による定住促進により、定住・交流人口の増加を図り、賑わいのあるまちづくりを進めます。

② まちづくりのテーマ

地域固有の資源を活かした地域内外の 交流促進による賑わいのあるまちづくり

地場産業の振興による地域の活性化や、観光資源を活かした交流人口の増加、定住促進により地域活力を向上させ、賑わいのあるまちづくりを行っていきます。



水分桜(みくまり桜)

③ まちづくりの方針

土地利用

○住宅地

- ・市街化区域の住居系用途地域では、周辺の豊かな自然環境と調和した住宅地の形成を図ります。
- ・市街化調整区域の住宅地では、無秩序な開発を抑制し、地域コミュニティの維持を図るなど、生活の質の向上を目指します。
- ・空き家の有効利活用の検討を進めるとともに、U/I ターン受け入れの土台づくりを検討し、定住促進を図ります。

○商業地

- ・菟田野地域事務所及び人権交流センター周辺は、地域の拠点として、公共施設を中心とした生活に必要な都市機能を集積し、日常生活の利便性を高め、活力を発信していく拠点形成を図ります。

○工業地

- ・既存の工場が立地する市街化調整区域の工場集積地は、周辺の住環境に配慮し、施設の改修や工業用水域の水質の保全を図ります。

○観光創出地

- ・国宝宇太水分神社周辺では、観光客の増加に向けた景観の向上やアクセスルートの整備を進めます。

道路・交通

○道路

- ・広域連携軸が交差する岩崎東口交差点では、交通課題の解消に向けた整備を進めます。

○公共交通

- ・既存の公共交通を有効に活用し、人権交流センター周辺整備を契機に乗り継ぎ利便性の向上など交通機関相互の連携を図り、持続可能な地域公共交通ネットワークを形成します。
- ・地域特性に対応した公共交通サービスの運行形態・仕組みの見直し・改善を推進します。

公園・緑地

○公園

- ・カエデの郷ひらは、地域の四季彩の拠点として、今後とも保全・活用を図ります。
- ・菟田野ほたる公園は、地域の憩いの場となっていることから、今後とも保全・活用を図ります。
- ・既存の公園は、健幸都市ウェルネスシティ構想の実現に向けた取り組みを推進します。

○都市緑化

- ・四季彩のネットワークに位置づけられる芳野川は、都市間の自然環境を繋ぐものであることから、今後も整備・保全を図ります。

その他都市施設

- ・菟田野小学校周辺では、こども園の設置に向けた取り組みを進めます。

市街地・産業環境等

- ・旧宇賀志小学校周辺では、地域の活力向上に寄与する取り組みの検討を進めます。
- ・場所を選ばず仕事ができる力を持っている人に対して、移住やダブルローカル（二地域住居）を支援し、地域コミュニティや仕事を創出してもらうための取り組みを推進します。
- ・毛皮革の新製品の開発によるブランド化や地場産業従事者の募集、育成を推進します。
- ・廃校跡地を活用した拠点整備を推進します。
- ・菟田野地域事務所及び人権交流センター周辺等への生活サービス施設の集約を図ります。

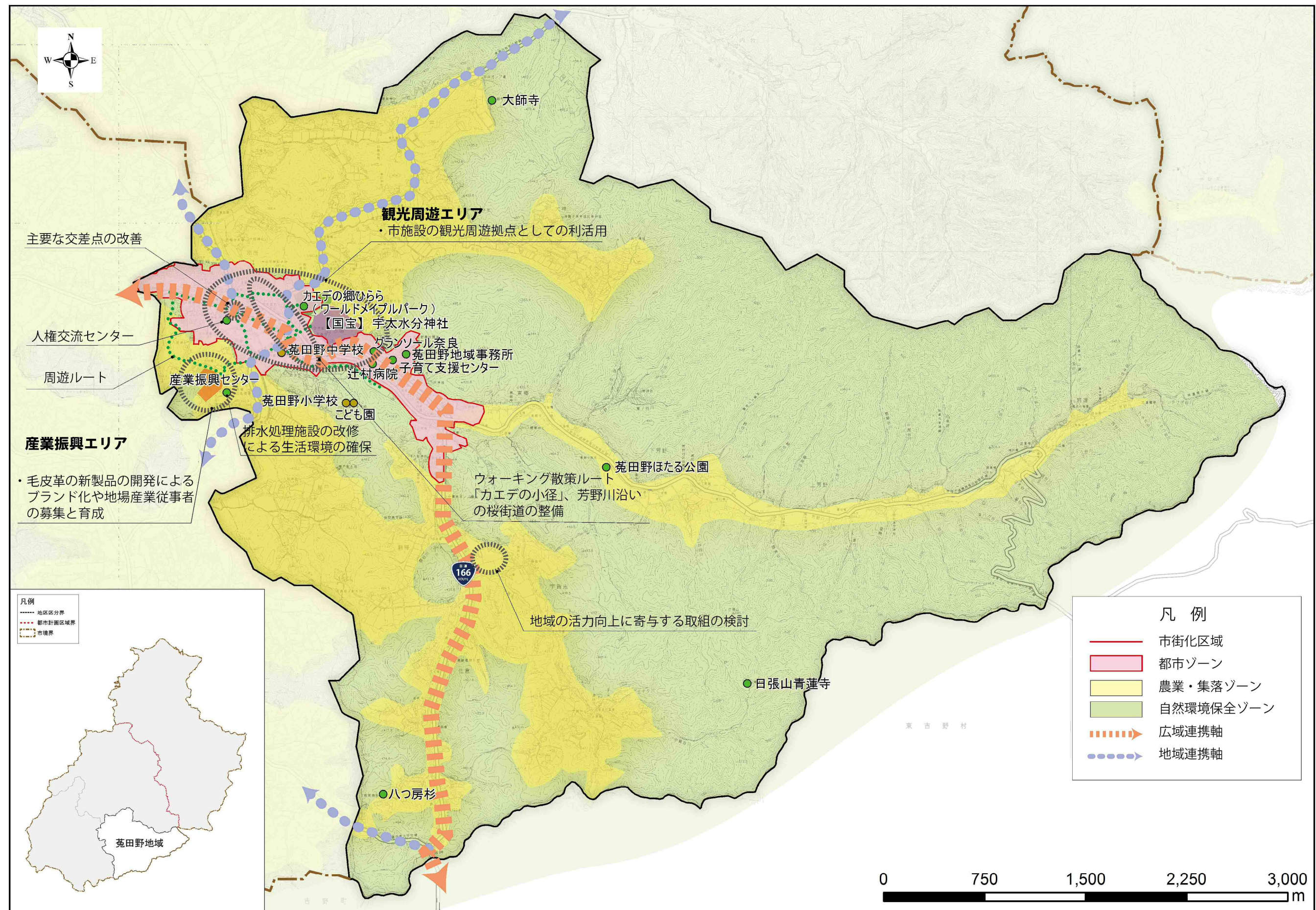
歴史・自然・観光

- ・国宝宇太水分神社、日張山青蓮寺や八つ房杉、平井大師山石仏群等の観光資源について、さらなる観光振興を図ります。
- ・観光拠点をつなぐアクセス道路や駐車場等の環境整備を進めます。
- ・ウォーキングルート、サイクリングルート「カエデの小径」や芳野川沿いの桜街道の整備を進めます。

防災

- ・発災時、地域防災拠点（情報通信副拠点）に位置づけられる菟田野地域事務所は、情報通信機器の整備を推進します。

(5) 菟田野地域方針図



6-4 榛原地域

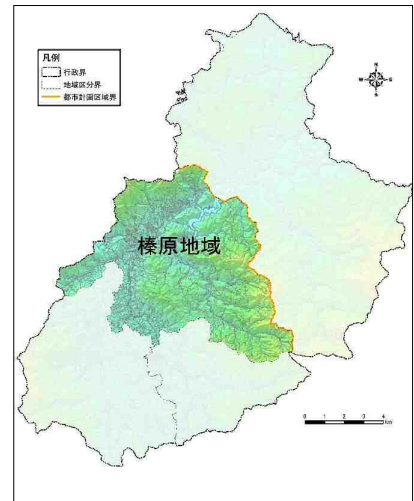
(1) 地域の概況

① 地域の概要

榛原地域は、本市の西部に位置し、国道 165 号、国道 369 号及び国道 370 号が地域の内外を結んでいます。最寄りの鉄道駅は榛原駅となっています。

榛原地域は、宇陀市の中心地として発展し、駅周辺には住宅地の他にも商業施設、文化施設、健康増進施設等の施設が立地しています。また、周囲に丘陵地が迫っているため、山岳地の谷あい形成された緑豊かな町としての環境を維持しており、自然と身近に接する機会に恵まれています。

榛原地域内には様々な教育・福祉施設等が存在していますが、現在、住宅地と商業・文化・医療施設エリアは鉄道により分断されている状況です。

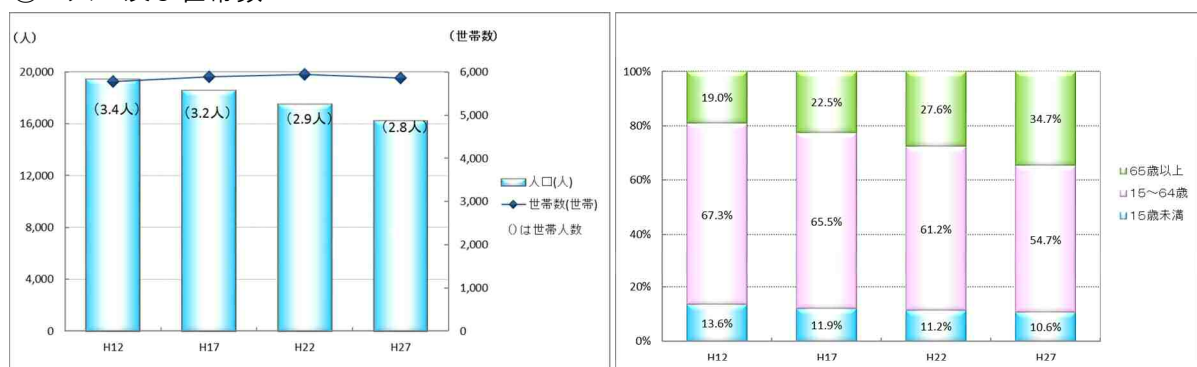


佛隆寺



宇陀市はいばら花火大会

② 人口及び世帯数



※ 小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%とはならない。

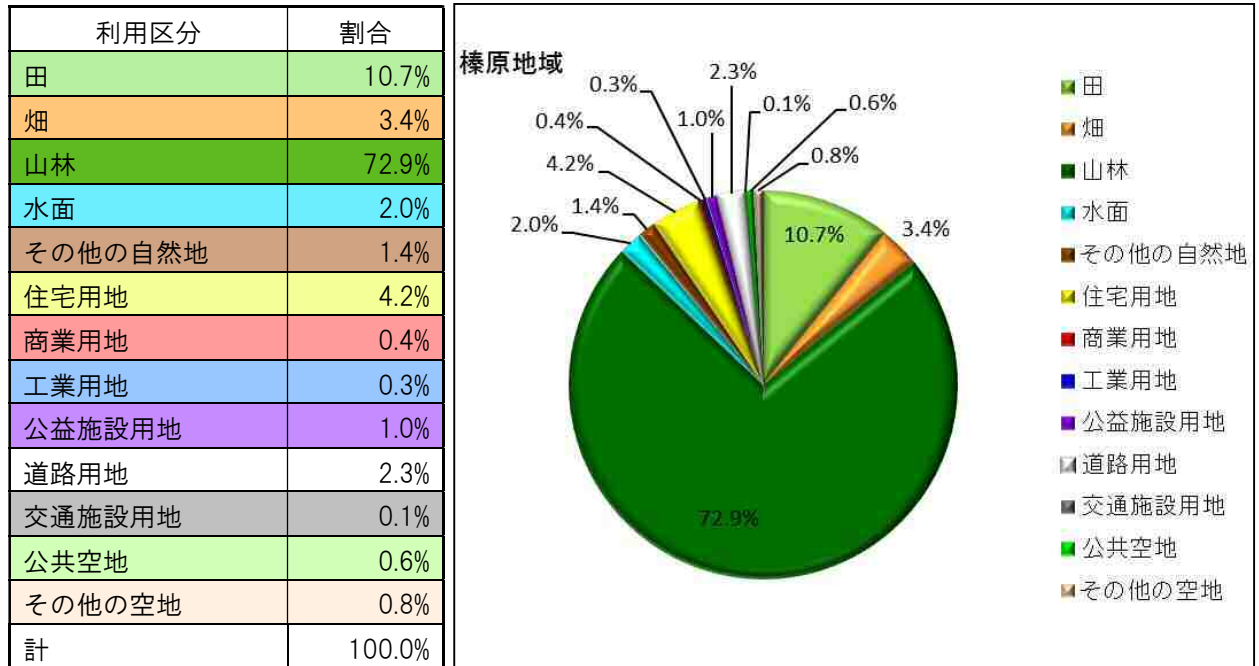
資料：国勢調査

榛原地域の人口は市全体の半数以上を占めているものの、減少傾向にあり、H12 の 19,438 人から H27 では 16,228 人と約 17%の減少となっています。世帯数は H22 までは増加傾向にありましたが、一世帯当たりの人口が減少しているため、核家族化が進展していると言えます。

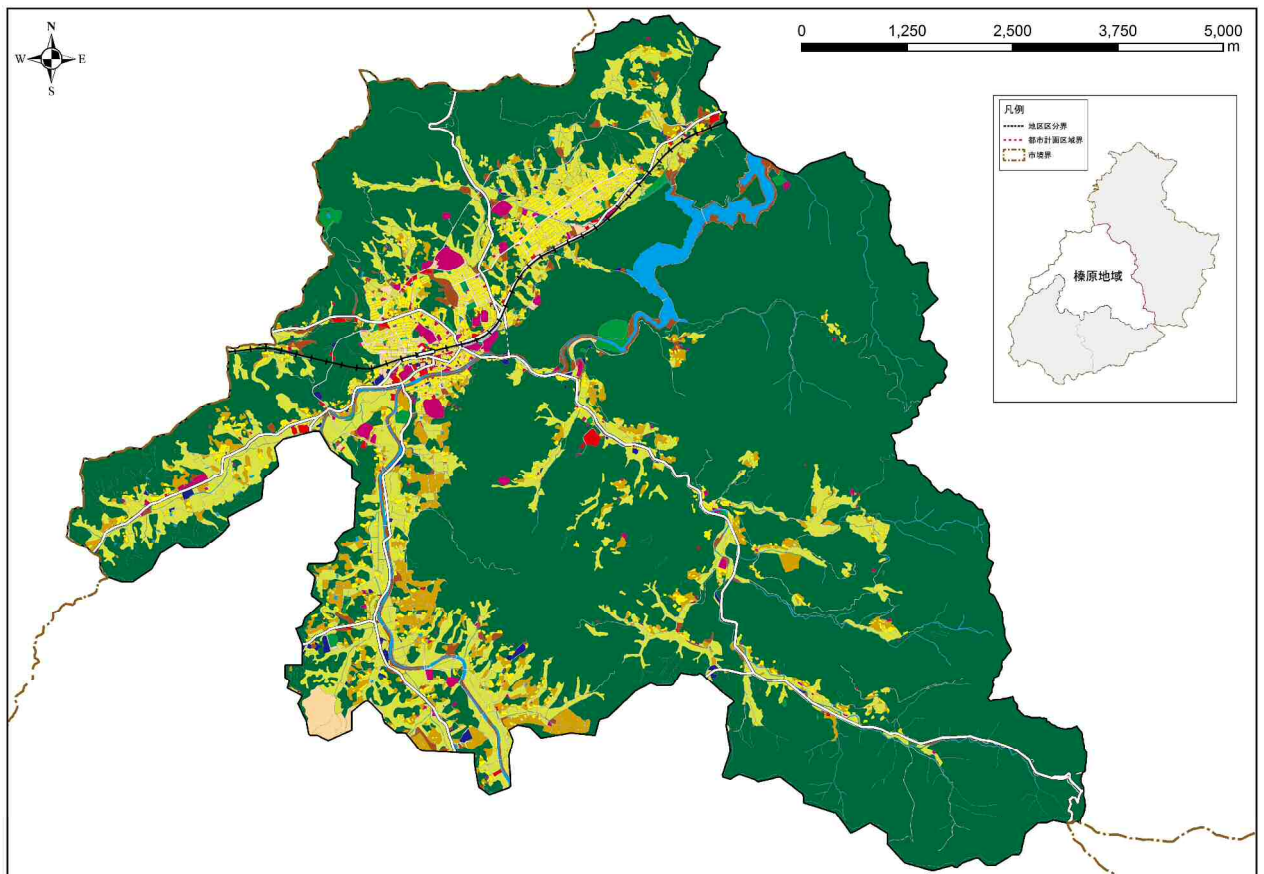
年齢階層別にみると、15 歳未満の年少人口、15～64 歳までの生産年齢人口が減少しているのに対し、65 歳以上の高齢人口は増加しており、少子高齢化が進展していると言えます。

③ 土地利用状況

榛原地域の土地利用は、山林が約73%を占めており、住宅用地は4.2%となっています。



※ 小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

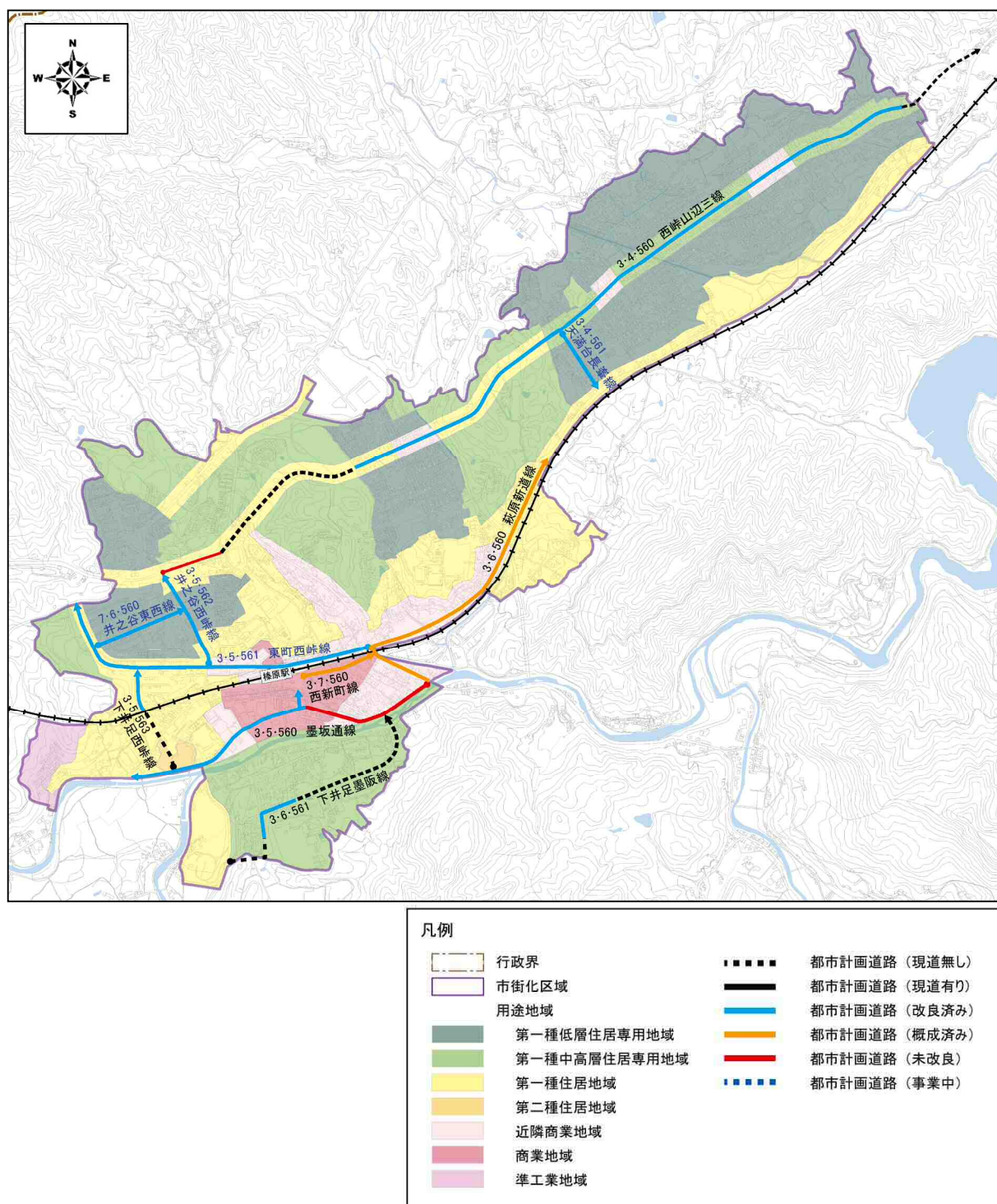


資料：H26 都市計画基礎調査

(2) 都市計画の状況

榛原地域の市街化区域には、榛原駅周辺に本市で唯一の商業地域・近隣商業地域が指定されています。また、近鉄大阪線の北側で、第一種低層住居専用地域に指定されている地域では、閑静な住宅街が広がっています。これらの他、第一種中高層住居専用地域や第一種住居地域等の住居系用途地域が指定されています。市街化区域の西側では、準工業地域の指定もなされています。

都市計画道路は、10路線が指定されており、このうち3・4・561 天満台長峯線、3・5・561 東町西峠線、3・5・562 井之谷西峠線、7・6・560 井之谷東西線は全線改良済みとなっていますが、これら以外の都市計画道路（区間）は、今後廃止も含めた都市計画道路の見直しを行っていきます。



(3) 榛原地域におけるまちづくりの課題

① 市民意向

1. アンケート結果

【都市計画マスタープラン策定のためのアンケート調査】

(平成 25 年 1 月実施、市民 2,000 票配布・回収率 50%、高校生 268 票配布・回収率 95%)

榛原地域の強み	榛原地域に対する要望
・豊かな自然 ・他地域より公共交通の利用者が多い ・道路管理、維持に積極的 ・日用品の買い物で他地域への流出が少ない ・他地域（宇陀市内）からの外出時の流入が多い	・市街化の区分について緩和の措置 ・榛原駅周辺道路の整備 ・歩道の整備、バリアフリー化 ・行政への道路の維持管理 ・土砂災害への対策 ・防犯灯（街路灯）の増設

【中学生アンケート】

(平成 28 年 7 月実施、榛原中学校の 2 年生全員に配布・全員直接回収)

将来に残したいもの	改善したいもの	創りたいもの
1. 自然環境 2. 教育施設 3. 小売店 4. 公共交通 5. 地域文化	1. 公共交通 2. 小売店 3. 都市環境 4. 自然環境 5. 教育施設	1. 娯楽施設 2. 小売店 3. スポーツ施設 4. 商業施設 5. 専門店

※回答結果を類型化したもの、意見が多い順。

アンケート結果からみるまちづくりの方向性

- ・豊かな自然環境の保全
- ・公共交通の利活用の向上
- ・榛原駅周辺の交通環境の改善
- ・宇陀市の中心としてのさらなる都市機能強化
- ・災害対策や防犯対策による安全、安心のまちづくり
- ・各種販売店等の商業機能の充実
- ・教育環境の向上

② まちづくりの課題

全体構想における位置づけ

- ・ 榛原駅周辺は本市の都市拠点として、都市基盤整備の推進をはじめとした市の中心的拠点の形成を図る。【将来都市構造/都市拠点】
- ・ 周辺の公共施設へのアクセスの改善等、様々な都市機能が集積した魅力ある拠点の形成を図る。【将来都市構造/都市拠点】
- ・ 榛原駅北側の空閑地は、観光レクリエーション拠点として、観光客の誘客に向けた整備・保全を図る。【将来都市構造/観光レクリエーション拠点】
- ・ 様々な連携や交流を生み出す広域連携軸が地域全体に通じており、広域的な交通ネットワークの確保を図る。【将来都市構造/広域連携軸】

アンケート調査結果

- ・ 豊かな自然環境の保全
- ・ 公共交通の利活用の向上
- ・ 榛原駅周辺の交通環境の改善
- ・ 宇陀市の中心としてのさらなる都市機能強化
- ・ 災害対策や防犯対策による安全、安心のまちづくり
- ・ 各種販売店等の商業機能の充実
- ・ 教育環境の向上

ワークショップ結果（平成 28 年 6 月 23 日（木）実施 参加人数：15 名）

- | | | |
|--------------|---------------|----------------------|
| 【道路・交通】 | 【人口減少対策】 | 【榛原駅周辺】 |
| ・ 自転車道、歩道の整備 | ・ 若者の定住施策 | ・ 駅前商店街や複合ビルの整備 |
| ・ 榛原駅北側の道路整備 | ・ 思い切った人口定住施策 | ・ 駅周辺まちづくりの推進 |
| ・ 狭隘道路の解消 | 【歴史・観光】 | ・ 宇陀市の玄関としての情報発信拠点整備 |
| ・ 危険箇所対策 | ・ 歴史遺産の利活用 | 【その他】 |
| 【生活、子育て支援】 | ・ 伊勢街道の整備 | ・ 桜やホタル等観光を呼び込む施策強化 |
| ・ 子育て支援の充実 | ・ 観光周遊道路の整備 | ・ 笠間方面への公共交通整備 |
| ・ 空き家の有効利活用 | | ・ 榛原駅北側の空閑地の有効利活用 |

榛原地域のまちづくりの課題

- ・ 宇陀市の中心としての活力向上
- ・ 鉄道により分断されている南北軸の解消に向けたアクセス整備
- ・ 駅周辺の生活利便施設の充実とアクセス強化
- ・ 豊かな自然環境を活かした居住環境の向上
- ・ 広域的な交通ネットワークの拡充
- ・ 災害対策や防犯対策による安全、安心のまちづくり

(4) 榛原地域の将来像

① まちづくりの方向性

榛原地域は、本市の中心市街地であり、主要な鉄道駅である榛原駅を有しています。市街地周辺には豊かな自然環境が存在し、住宅地と調和した環境が広がっています。これからも、誰もが安全・安心に生活できる環境づくりを目指し、居住環境の向上を図るとともに、駅前の利便性の向上や生活サービス施設の充実を進めていきます。また、鉄道による南北間のアクセス分断を改善し、市民がより健康的で文化的な生活を送れるよう努めていくとともに、官民連携したイベント等を引き続き実施していき、地域の活性化を図っていきます。

② まちづくりのテーマ

宇陀市の中心にふさわしい、賑わいを創出するまちづくり

本市の中心である榛原駅周辺には、今後立地適正化計画に基づき、生活サービス施設をはじめとした都市機能を集約し、市内外からの様々な流通を生み出す拠点づくりを進めることで賑わいの創出を目指します。また、豊かな自然環境を身近に感じながら、健やかな暮らしができる居住環境を形成し、生活の質の向上を図ります。



鳥見山から見た大和富士と市街地

③ まちづくりの方針

土地利用

○住宅地

- ・榛原駅北側に広がる閑静な住宅地では、既存の土地利用に配慮しながら、自然と調和した環境づくりを進め、周辺の商業・業務施設へのアクセスの改善等、利便性の高い住環境の形成を図ります。
- ・市街化調整区域内の住宅地では、無秩序な開発を抑制し、地域コミュニティの維持を図るなど、生活の質の向上を目指します。
- ・空き家の有効利活用を検討するとともに、U/I ターン受け入れの土台づくりを検討し、定住促進を図ります。

○商業地

- ・榛原駅前では、商業・業務施設を集積し、情報発信や交流の場を確保するなど、人々が日常的に訪れ賑わいを生み出す中心商業地の形成を図ります。
- ・既存商店街について空き店舗の有効活用や道路・駐車場等の環境整備を行い、地元商業機運の強化・充実を図ります。

○工業地

- ・産業拠点に位置づけられる市街化区域西側の地域では、都市活力の維持・向上を目指した産業基盤整備を図り、新規産業の誘導も視野に入れた受け皿の確保を進めます。

○観光創出地

- ・観光レクリエーションゾーンに位置づけられる榛原駅北側の地域では、観光に寄与する宿泊施設等の新たな施設整備を進め、周辺の土地利用との調和を図りながら、商業系用途地域への変更も視野に入れて検討していきます。

○その他

- ・榛原駅南西部の農地等は、榛原地域の賑わい創出に向け、都市的土地利用への転換も視野に入れた検討を行います。

道路・交通

○道路

- ・未整備となっている都市計画道路については、その必要性や代替性を検討した上で、廃止も含めた見直しを進め、存続すべき道路の整備を推進します。
- ・鉄道により分断されている南北方向へのアクセスについて、周辺のまちづくりに配慮した整備推進を図ります。

○公共交通

- ・近鉄大阪線の利用者増を目指し、榛原駅へのアクセス性を向上させるとともに、榛原駅前における一時駐車場の確保やバス・タクシー乗り場の整備等、駅の利便性の向上・安全性の確保を図ります。
- ・地域特性に対応した公共交通サービスの運行形態・仕組みの見直し・改善を推進します。

公園・緑地

○公園

- ・平成榛原子供のもり公園は、地域の四季彩の拠点として、今後とも保全・活用を図ります。
- ・既存の公園は、健幸都市ウェルネスシティ構想の実現に向けた取り組みを推進します。

○都市緑化

- ・四季彩のネットワークに位置づけられる宇陀川や芳野川は、都市間の自然環境を繋ぐものであることから、今後も保全を図ります。

その他都市施設

- ・宇陀市立病院は、駐車場整備やアクセス道路整備等、利用環境の改善を進め、利便性の向上を図ります。
- ・宇陀市医療介護あんしんセンターでは、健幸都市ウェルネスシティ構想に基づき、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく提供される地域包括ケアシステムの構築を推進します。
- ・介護老人保健施設さんとぴあ榛原では、福祉施設サービスについて広域的な連携を図り、施設整備やサービスの充実を図ります。
- ・宇陀市総合体育館、総合運動場を中心に、市民の快活な生活に寄与するものとして、健康増進機能を有する拠点の検討を進めます。
- ・子育て支援施設を含めたこども園の設置に向けた検討・整備を図ります。

市街地・産業環境等

- ・旧伊那佐文化センター周辺及び健民グラウンド周辺等では、地域の活力向上に寄与する取り組みの検討を進めます。
- ・宇陀市版のコンパクトシティを実現していくために、立地適正化計画による生活サービス施設等の榛原駅周辺への集約を図るなど、総合的な整備を推進します。

歴史・自然・観光

- ・榛原駅は本市の玄関口として、各地域の観光資源をPRする案内施設整備を図ります。
- ・宿泊観光客数の増加を目指し、新たな宿泊施設整備についての検討を進めます。
- ・伊勢街道の保全や市内各地域の観光拠点を結ぶ観光周遊ルートの整備を推進するとともに、佛隆寺の千年桜やホタル等の観光資源を有効活用し、観光誘客に向けた施策強化を図ります。

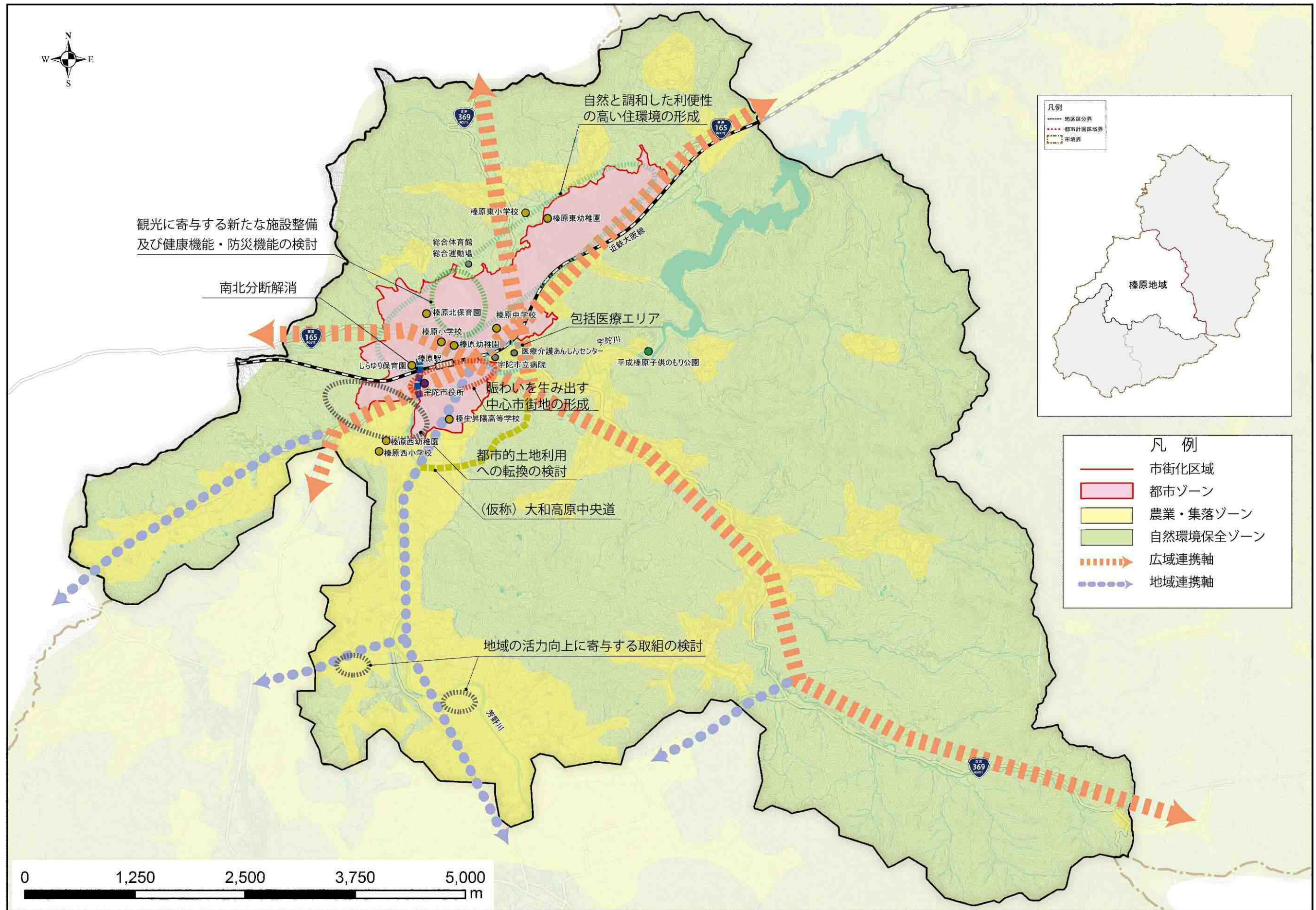
防災

- ・発災時、防災中心拠点（情報通信中心拠点）に位置づけられる宇陀市役所は、情報通信機器の整備を進めます。
- ・榛原駅北側の空地では、防災拠点としても対応が可能となる公園の検討を進めます。



中心市街地の自然環境と居住環境

(5) 榛原地域方針図



6-5 室生地域

(1) 地域の概況

① 地域の概要

室生地域は、本市の東部に位置し、国道165号及び県道28号が地域の内外を結んでいます。最寄りの鉄道駅は近鉄大阪線室生口大野駅と三本松駅となっています。

室生地域は、古くから国宝室生寺を始めとした、大野寺や龍穴神社等の歴史資源、室生赤目青山国定公園、向湊スズラン群落等の自然資源に恵まれています。また、室生山上公園芸術の森は、環境芸術のアーティストによるモニュメント展示を行う等、自然環境を利活用した公園になっているなど、豊かな観光・レクリエーション資源も数多く有しています。現在は、それぞれの地域の地形を生かして、北部では茶・稲作等の農業、南部では林業・観光が中心産業となっています。

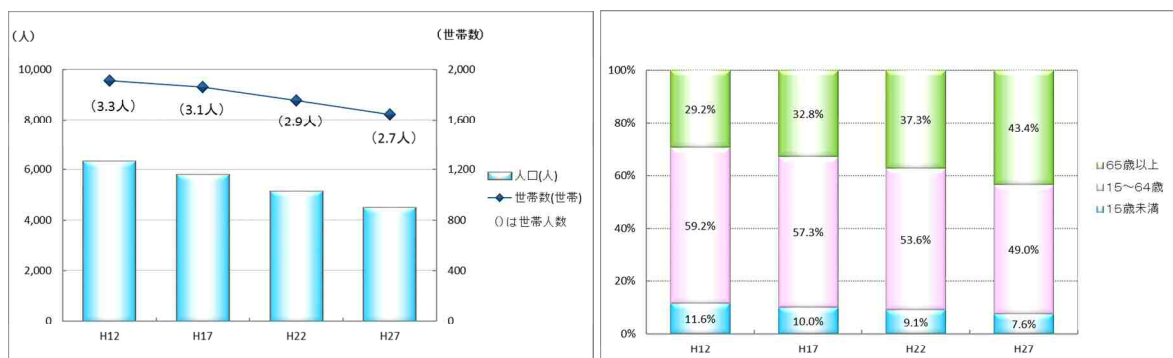


大野寺



室生寺

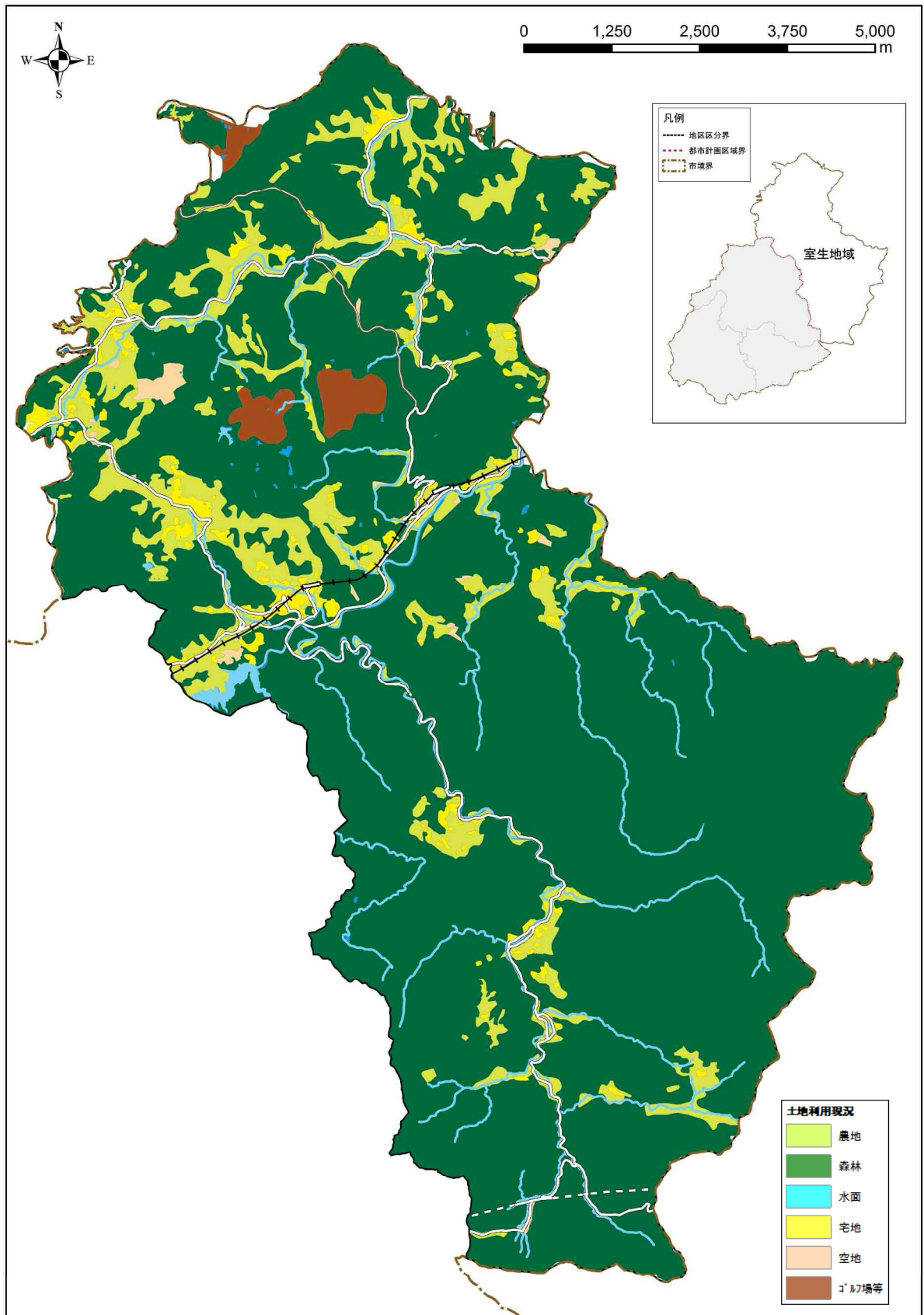
② 人口及び世帯数



※ 小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。 資料：国勢調査

室生地域の人口、世帯数、世帯人員はともに減少傾向にあり、人口はH12の6,306人からH27では4,488人と約29%の大幅な減少となっており、年齢階層別の65歳以上の高齢人口の割合もH27で43.4%と、4地域の中でもっとも高くなっています。今後、さらなる高齢人口割合の増加が見込まれています。

③ 土地利用状況



資料：国土数値地図情報

(2) 室生地域におけるまちづくりの課題

① 市民意向

1. アンケート結果

【都市計画マスタープラン策定のためのアンケート調査】

(平成 25 年 1 月実施、市民 2,000 票配布・回収率 50%、高校生 268 票配布・回収率 95%)

室生地域の強み	室生地域に対する要望
・豊かな自然	・経済の活性化を阻害しないよう区域区分の緩和の措置 ・地区内、集落内の身近な生活道路。 ・災害時の避難路の安全確保。防犯灯（街路灯）の増設 ・行政への道路の維持管理 ・土砂災害への対策

【中学生アンケート】

(平成 28 年 7 月実施、室生中学校の 2 年生全員に配布・全員直接回収)

将来に残したいもの	改善したいもの	創りたいもの
1. 自然環境 2. 歴史・伝統 3. 寺社・仏閣 4. 人（子ども） 5. 観光施設	1. 観光施設 2. 小売店 3. 都市環境 4. 公共交通 5. 少子高齢化	1. 小売店 2. 公共交通 3. 文化施設 4. 専門店 5. 観光施設

※回答結果を類型化したもの、意見が多い順。

アンケート結果からみるまちづくりの方向性

- ・豊かな自然環境の保全
- ・身近な生活道路の改善
- ・観光誘客によるまちの活性化
- ・歴史や伝統、寺社等の遺産を大切にするまちづくり
- ・災害対策や防犯対策による安全、安心のまちづくり
- ・各種販売店等の商業機能の充実

② まちづくりの課題

全体構想における位置づけ

- ・ 室生地域事務所周辺は本地域の地域拠点として、生活に必要な都市機能の集積や、活力を発信していく拠点形成を図る。【将来都市構造/地域拠点】
- ・ 三重県名張市方面と本市とを結ぶ広域連携軸（国道 165 号）が地域に通じており、南北を通るやまなみロードをはじめとする地域連携軸とともに効率的な都市機能の強化に向けた交通ネットワークの確保を図る。【将来都市構造/広域連携軸・地域連携軸】
- ・ 国宝室生寺等本市の歴史・観光資源が集積している地域は、さらなる観光誘客の強化に向けた基盤整備を進める。【将来都市構造/観光創出地】
- ・ 公共交通空白地でサービスを展開しているデマンド型乗合タクシーの利便性の向上を目指す。【分野別の方針/公共交通】

アンケート調査結果

- ・ 豊かな自然環境の保全
- ・ 身近な生活道路の改善
- ・ 観光誘客によるまちの活性化
- ・ 歴史や伝統、寺社等の遺産を大切にするまちづくり
- ・ 災害対策や防犯対策による安全、安心のまちづくり
- ・ 各種販売店等の商業機能の充実

ワークショップ結果（平成 28 年 6 月 29 日（水）実施 参加人数：27 名）

- | | | |
|-----------------|------------------|-------------------|
| 【居住・生活・人材確保】 | 【道路管理等】 | 【観光・文化・拠点】 |
| ・ 若者が定住、活躍できるまち | ・ 主要道路、生活道路の整備改善 | ・ 室生寺の観光力の増加 |
| ・ 企業、工場誘致 | ・ 樹木の伐採、雑草の除去 | ・ 室生寺～山上公園までの道路改修 |
| ・ 遊休地や空き家の対策 | ・ 旧伊勢街道の保全 | ・ ふるさと元気村の活用 |
| ・ 高齢者と子供のふれあいの場 | ・ 歴史、自然観光への道の整備 | ・ 伝統文化の継承 |
| ・ 誰もが集える場所 | | ・ 室生口大野駅周辺の活性化 |
| 【農地・自然景観】 | | ・ 東海自然歩道の整備 |
| ・ 遊休農地の利活用 | | |
| ・ 鳥獣害対策 | | |
| ・ 観光拠点を結ぶルートの改善 | | |
| ・ 田舎の風景の保全 | | |

室生地域のまちづくりの課題

- ・ 豊かな自然環境を活かした居住環境の向上
- ・ 若者が定住、活躍できるまちづくり
- ・ 歴史、観光資源を活用した観光誘客によるまちの活性化
- ・ 室生口大野駅周辺の活性化、商業機能の充実
- ・ 公共交通空白地の対策
- ・ 災害対策や防犯対策による安全、安心のまちづくり

(3) 室生地域の将来像

① まちづくりの方向性

室生地域は、近鉄大阪線の室生口大野駅、三本松駅を配し、本市の中心である榛原駅と公共交通で結ばれていることから、駅周辺は利便性が高い地域となりますが、広大な面積を有する本地域は、公共交通サービスの拡充、地域コミュニティの維持・活力の向上等が課題となっています。

本地域が有する貴重な歴史資源である国宝室生寺は、「女人高野」と呼ばれていることから、女性をターゲットとした観光客の呼び込みをより積極的に強化しつつ、店舗や施設を充実させるために、室生寺門前の空き店舗の有効利活用に向けた取り組みを実施します。また、室生寺と室生山上公園の間のアクセス環境を改善し、観光の相乗効果を図ります。

② まちづくりのテーマ

**「女人高野」室生寺門前町の賑わいづくりを目指し、
室生の玄関口である室生口大野駅周辺の拠点形成をめざすまちづくり**

女人高野と呼ばれる国宝室生寺や、大野寺、室生山上公園芸術の森等の豊富な観光資源を有効活用し、人を呼び込み、活力あるまちづくりを行っていきます。また、公有地を有効活用した高齢者に優しいまちづくりを目指すとともに、本地域の玄関口である室生口大野駅前における公共サービスや観光案内等の拠点整備を進めます。



室生寺

③ まちづくりの方針

土地利用

○住宅地

- ・空き家の有効利活用の検討を進めるとともに、UIJ ターン受け入れの土台づくりを検討し、定住促進を図ります。

○商業地

- ・室生口大野駅周辺は地域の拠点として、公共施設を中心とした生活に必要な都市機能を集積し、日常生活の利便性を高め、活力を発信していく拠点形成を図ります。

○観光創出地

- ・室生寺門前町周辺では、女性をターゲットにした空き店舗の有効利活用に向けた取り組みを進めるとともに、観光客の増加に向けた町並みの向上やアクセスルートの整備を進めます。
- ・国宝室生寺と室生山上公園までのアクセス環境の整備を進めます。

道路・交通

○道路

- ・ 国宝室生寺や大野寺等の観光地に対し、東海自然歩道の活用等、歩きたくなる観光ルートの形成を目指した歩道の整備等を進めます。
- ・ 室生山上公園は、さらなる観光客の増加に向けたアクセス道路の整備を検討します。

○公共交通

- ・ 既存の公共交通を有効に活用し、近鉄室生口大野駅周辺の再整備を契機に乗り継ぎ利便性の向上など交通機関相互の連携を図り、持続可能な地域公共交通ネットワークを形成します。
- ・ 地域特性に対応した公共交通サービスの運行形態・仕組みの見直し・改善を推進します。

公園・緑地

○公園

- ・ 既存の公園は、健幸都市ウェルネスシティ構想の実現に向けた取り組みを推進します。

歴史・自然・観光

- ・ 室生赤目青山国定公園をはじめ本地域を代表する豊かな自然景観の保全を図ります。
- ・ 室生口大野駅周辺では、国宝室生寺への来訪玄関口として、人が集える仕掛けづくりなど、活性化を図ります。
- ・ 室生口大野駅と室生寺門前を結ぶ、地域の特色を活かした魅力あるアクセス空間の整備を進めます。
- ・ 室生山上公園は今後も適切な管理を推進します。

防災

- ・ 発災時、地域防災拠点（情報通信副拠点）に位置づけられる室生地域事務所は、施設の耐震化や情報通信機器の整備を推進します。

(4) 室生地域方針図

